

第6回歯科技工士の養成・確保に関する検討会	参考 資料 5
平成31年3月4日	
第5回歯科技工士の養成・確保に関する検討会	資料 2
平成31年1月17日	



第5回 歯科技工士の養成・確保に関する検討会

2019, 1, 17

アルモニア 傳寶 弥里（デンボウ ミサト）

P r o f i l e

- 1971年 神奈川県横須賀市生まれ
- 1993年 東京医科歯科大学医学部附属歯科技工士学校本科 卒業
(有) I. S. Dental 入社
- 2005年 (有) I. S. Dental 退社
アルモニア開設
- 2015年 (一社) 神奈川県歯科技工士会横浜支部支部長就任

現在 開業 14 年目 歯科技工士歴 25年



ラボ概要

神奈川県横浜市綱島西2-2-12
プリアール綱島式番館204

<営業時間>

10:00 ~ 20:00

<定休日>

木曜・日曜・祝祭日









concept

- ・自費治療の歯冠修復専門技工
- ・マイクロスコープを使用しての精密技工





concept

- ・女性技工士ならではの歯科技工所
- ・歯科医院、患者様に安心、信頼を得られる歯科技工所





一日のタイムスケジュール

AM 6:00 起床

AM 7:30 出勤 技工業務

PM19:00 技工物発送 技工業務

AM 1:15 帰宅

AM 2:00 就寝

- ・技工業務の中には立ち会いを含む
- ・技工物の取引は宅配便だが、宅配便に間に合わないと配達
- ・技工業務の合間に技工士会の業務も行う

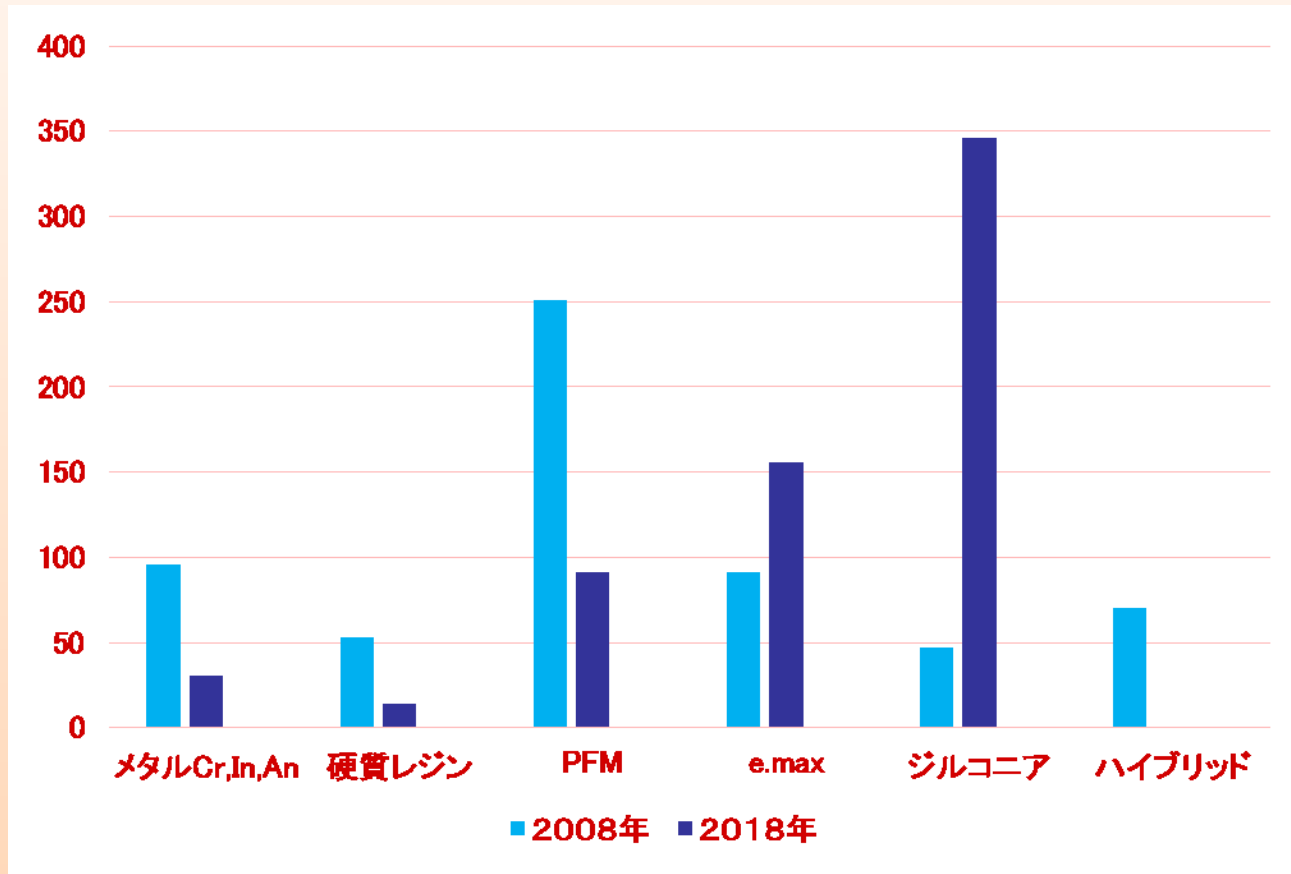
※週に1から2回、一日4時間の契約で技工士免許所有者をアルバイトで雇用主に事務作業を行ってもらっている。

技工士会の業務 月一回 県技会議
 月一回 支部会議
 月一回 支部便り製作、発送
その他、学術・厚生事業の準備、会議資料の製作、連盟活動等



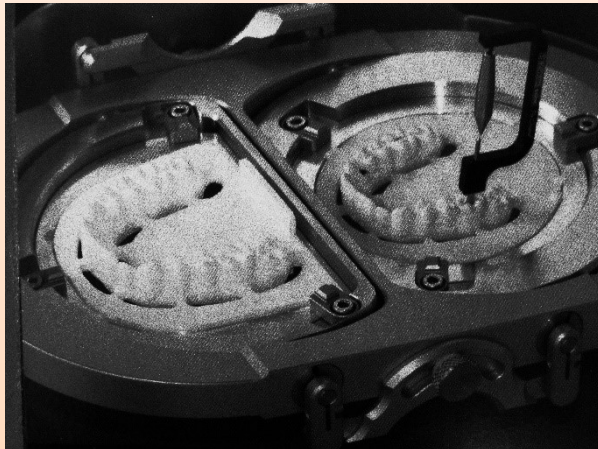
近年の傾向

業務内容の変化



業務内容変化に伴う弊社の対応

ジルコニアの仕事が多くなるにつれ、CAD/CAMを設備していないため、外注工賃が経営を圧迫し始めた。それに加え、当初はCAD/CAMでは製作できない補綴物（インレー等）があったため、MAD/MAMを導入。



業務内容変化に伴う弊社の対応

ジルコニアを供給するメーカーが増えたこと、それに伴いブロックの強度、色等の種類が増えたこと、CAD/CAMの精度が上がったことなどで、技工物の質の差がつきづらくなった。患者様目線にたち、一般的に知られたメーカーであり、品質に対して保証されたpatent cardが納品時に添付されるメーカーのシステムを採用することにした。これにより、殆どの補綴物がジルコニアになったが、CAD/CAMシステムを設備していないため、またしても外注工賃が絡み、経営を圧迫している。経営改善の対応として、口腔内スキャナの普及も踏まえ、CADの導入、MAD/MAMで製作した技工物に自社製のpatent cardを添付することを検討している。

地域の歯科技工所との連携

一人歯科技工所において、CAD/CAMシステムの導入は資金面に関し、かなりのリスクを伴う。一人歯科技工所でCAD/CAMシステムを導入した場合は、殆どの場合、下請けでジルコニアのフレームの製作を受けている。当社の周りにも、当社が外注先に支払っている金額の2/3に近い金額（または、それ以下）でフレームの製作をしている歯科技工所があり、連携して仕事を回している。

歯科技工士不足のため、過剰に受注した技工物を下請けに出す歯科技工所は多く、それと同時に下請けの仕事をメインとして経営している歯科技工所も存在している。多くの場合、それは地域の歯科技工所間でなりたっている。必然的に下請け歯科技工所の労働条件は悪くなり、改善も見られず、悪評が広がる原因になっている。

情報の重要性

就職先が歯科技工業界で有名な歯科技工士が経営する歯科技工所だったため、自身が開業するときに技工料の設定が分からなかった。



技工士会に入っていたため、地域の歯科技工士の方々に地域の相場等、色々なことを教えていただいた。



技工士会に関わることで歯科技工士がいかに世の中に認知されていないかを知る。

2010年、神奈川歯科技工士ネット研究会に参加。
たくさんの先輩経営者と出会う事によって、いろいろな事が見えてきた。



一般企業と同じような就業条件でラボを経営することがいかに大変か。
福利厚生、残業問題 など。一人歯科技工所と組織歯科技工所の経
営を同じに考えてはいけないことを痛感する。



一人歯科技工所でいることを決める。一人歯科技工所としてやってい
くためには、情報を得ることは重要であり、研修会など、なるべく外に出
ていくようにしている。



歯科技工士として自分に出来ること

◆ 現在の歯科技工所の正しい情報を発信する

- ・ IT化が進み、歯科技工の業務内容が変わってきたこと。
- ・ 男女平等の職種であること。
- ・ 雑誌、SNS等を活用。

◆ 歯科治療における歯科技工士の重要性を知ってもらう

- ・ IT化が進んでも人の手でしか製作出来ないものがある。
インプラント等、シミュレーション通りに治療が進まなかった場合
歯科技工士の技量により、患者様の満足度は変わってくる。

今後の歯科技工業界について思うこと

一人又は小規模歯科技工所は大手歯科技工所に対し、穿った見方をしているところがあると思われる。大手歯科技工所が技工料のダンピングをしていると思っているが、それは現在にいたっては間違いである。ダンピングを行い、労働条件を悪くしているのは小規模歯科技工所であると思われる。しかし、新卒者は給料ではなく、福利厚生充実が就職先を選ぶ基準になっているため、小規模歯科技工所は人材補給が出来ず衰退していくと思われる。一人歯科技工所は特化した技術がない場合は下請けの仕事をする事になると考える。

歯科技工所の設備投資額は今後も増加すると考えられるので設備投資が出来ない歯科技工所はより連携を強めていく必要にかられると考える。

今後の歯科業界に期待すること

審美的な技工物をつくる技工士として、日本の政治家、官僚の会見をテレビで見るたびにため息が出る。歯科技工士の必要性を訴えても制度をつくる方々が自信の口腔内に関心がなければ聞き入れていただけるとは思えず虚しくなる。各自が自身の口腔内に関心を持つようになれば、口腔内に入っている技工物に対して関心を持つようになり、それを製作している者に目が向けられ、歯科技工士の認知に繋がると考える。高齢化に伴い、医科との連携も重要であるが、まずは改めて日本人のデンタルIQ向上の活動をしていただきたいと思う。



Tante grazie !